

2) 定点モニタリング

ヒアリやアルゼンチンアリなどの、貨物等に紛れて非意図的に導入される特定外来生物については、侵入の監視や早期発見が重要な対策となる。本業務では、これらの特定外来生物の国内への侵入実態を把握するため、空港、港湾等において踏査によるモニタリングを実施した。

①モニタリング方法

モニタリング対象種は特定外来生物のアリ類4種（アカカミアリ、ヒアリ、コカミアリ、アルゼンチンアリ）とその他のアリ類とした。モニタリングは特定外来生物等を所定の手続きを踏んだ上で輸入できる指定港のうち、成田空港、中部国際空港及び福岡空港の3空港と、外貿輸入貨物量と入港船舶隻数（外航）等を基準に選出した港湾等、合計20地点で実施した（表1-1）。また、各モニタリング地点のアリ類の確認状況を示した（表1-2）。

各地点ではコンテナターミナルや青果、木材の取扱いのある地区周辺など、あらかじめ決めておいた経路等をゆっくりと歩きながら、対象種を目視で確認し、記録した。目視の際は、公園、緑地、道路周辺の植込みや建築物や塀の割れ目等の人工物に注意を払った。踏査距離は1人1日あたり10～25km程度とした。必要がある場合は対象種の採集を行い、液浸標本とした。なお、特定外来生物を確認した場合は、その生息場所周辺での分布状況等をできるだけ正確に把握するよう努めた。

表 1-1 モニタリング地点の概要一覧

地域	調査地点 (調査開始年)	外貨輸入貨物量 (千トン)	入港船舶数 (外航) (隻)	調査月日	陸査距離 (km)	特定外来生物の生息状況	生息が確認されたその他の外来種
関東	成田国際空港 (2010～)	—	—	11月15日	7.1	—	—
	木更津港 (2011～)	45,852	1,220	12月5日	16.8	—	—
	千葉港 (2010～)	81,869	4,213	12月13日	17.7	—	—
	東京港 (2010～)	34,252	5,954	9月27日	29.7	2010年の千葉県調査でアルゼンチンアリの発生を確認。継続して確認されているが、防除活動により分布域・生息密度は減少傾向。	—
	川崎港 (2011～)	47,000	2,584	11月29日	36.4	—	—
	横浜港 (2010～)	44,775	10,247	9月29日/10月8日	53.4	アルゼンチンアリの発生確認は2007年。2013年調査において新たな発生地を確認。	ケブカアメイロアリ・インドオオゾアリ
	清水港 (2011～)	6,248	1,691	10月9日	28.6	—	—
東海	三河港 (2011～)	2,590	1,153	10月31日	9.2	アルゼンチンアリの発生確認は2005年。2011年以降、継続して確認されている。防除活動により、一部の場所では生息密度が減少。	—
	蒲郡港 (三河港) (2011～)	2,590	1,153	10月30日	14.5	—	—
	中部国際空港 (2010～)	—	—	11月14日	13.4	—	—
	名古屋港 (2010～)	84,671	8,530	10月29 - 30日	49.5	—	—
	大阪港 (2010～)	27,501	5,390	10月18日	44.5	アルゼンチンアリの発生確認は2007年。2012年確認の発生地は、2013年の調査でも発生を確認。	ケブカアメイロアリ
	神戸港 (2010～)	26,787	7,142	10月16 - 17日	72.8	アルゼンチンアリの発生確認は1999年。2010年以降、兵庫県調査で継続して確認されている。	ケブカアメイロアリ
	須磨海浜公園 (2012～)	—	—	10月16日	30.6	アルゼンチンアリの発生確認は2012年。2013年の調査でも発生を確認。	インドオオゾアリ
九州	福岡空港 (2010～)	—	—	9月19日	11.4	—	—
	博多港 (2010～)	11,251	5,138	11月20日	17.6	—	ケブカアメイロアリ・インドオオゾアリ
	佐世保港 (2012～)	216	63	11月21日	44	—	ケブカアメイロアリ
	伊万里港 (2012～)	375	293	11月22日	12.6	—	インドオオゾアリ
沖縄	那覇港・那覇空港 (2010～)	834	384	12月17 - 18日	52.3	—	ヒゲナガアメイロアリ・ツヤオオゾアリ
	石垣港 (2010～)	92	306	12月19日	28.9	—	ケブカアメイロアリ・ヒゲナガアメイロアリ・ツヤオオゾアリ

* 外貨輸入貨物量及び入港船舶数は国土交通省の「港湾統計 (年報) 平成24年」に基づく。

* 網掛け部分は、これまでの調査によってアルゼンチンアリの発生が確認されている調査地点を示す。

②モニタリング結果

全 20 地点で合計 591km を踏査した。その結果、東京港、横浜港、三河港、大阪港、神戸港及び兵庫県須磨海浜公園の 6 地点において、特定外来生物に指定されているアルゼンチンアリが生息していることを確認した（表 1-1）。また、これら以外の 14 地点では、特定外来生物に指定されているアリ類の生息は確認されなかった。さらに、確認された全てのアリ類について、調査地点ごとに出現状況をまとめた（表 1-2）。

アルゼンチンアリの生息が確認された地点のうち、今回のモニタリング調査が新発見となるのは、横浜港の既知アルゼンチンアリ発生地から離れた、横浜市中区かもめ町の 1 地点である。残りの地点（東京港城南島、横浜港本牧埠頭、三河港明見埠頭、大阪港住之江区、神戸港摩耶埠頭、ポートアイランド及び神戸市中央地区、須磨海浜公園）では以前からもアルゼンチンアリの生息が報告されており、今回のモニタリング調査においてもアルゼンチンアリが引き続いて生息していることを確認した。

以下に、各地点におけるモニタリング結果を取りまとめた。なお、確認されたアリ類のうち外来と考えられる種については和名に続けて「(外)」と記した。

ア. 成田国際空港

- ・踏査日 2013 年 11 月 15 日（曇り、最高気温 11.3℃ 最低気温 7.1℃）
- ・踏査経路 図 1-2、1-3-①～②を参照
- ・踏査距離 7.1km
- ・踏査人員 1 名

横浜植物防疫所成田支所の協力を得て成田空港周辺、植物防疫所検査場周辺においてアリ類の調査を行うとともに、担当職員への特定外来生物のアリ類の侵入防止についての情報提供と警戒要請を行った。

モニタリングの結果、特定外来生物に指定されているアリ類の生息は確認されなかった。その他の対象種として、クロオオアリ、クロヤマアリ、トビイロケアリ、トビイロシワアリ、クロナガアリの合計 5 種のアリ類の生息を確認した。

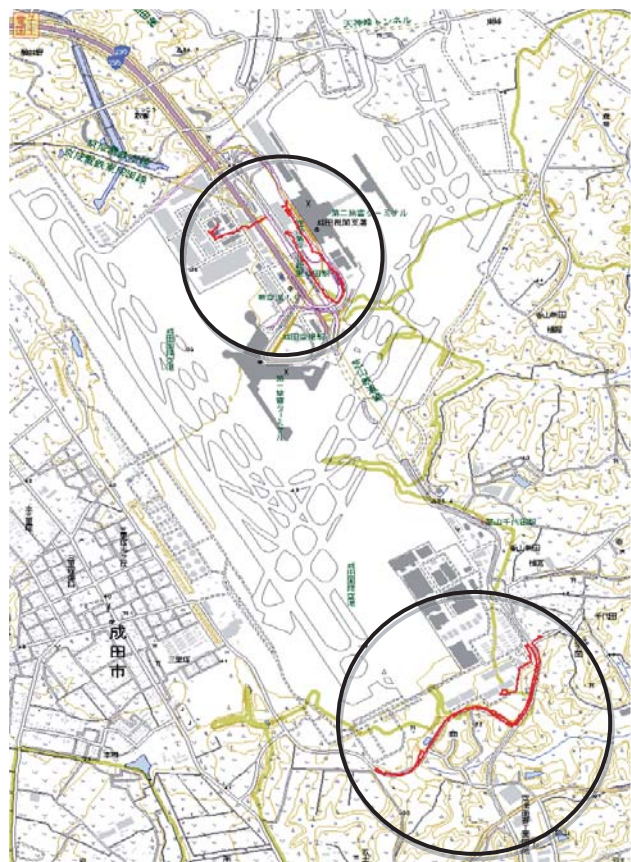


図 1-2 成田国際空港踏査路位置図

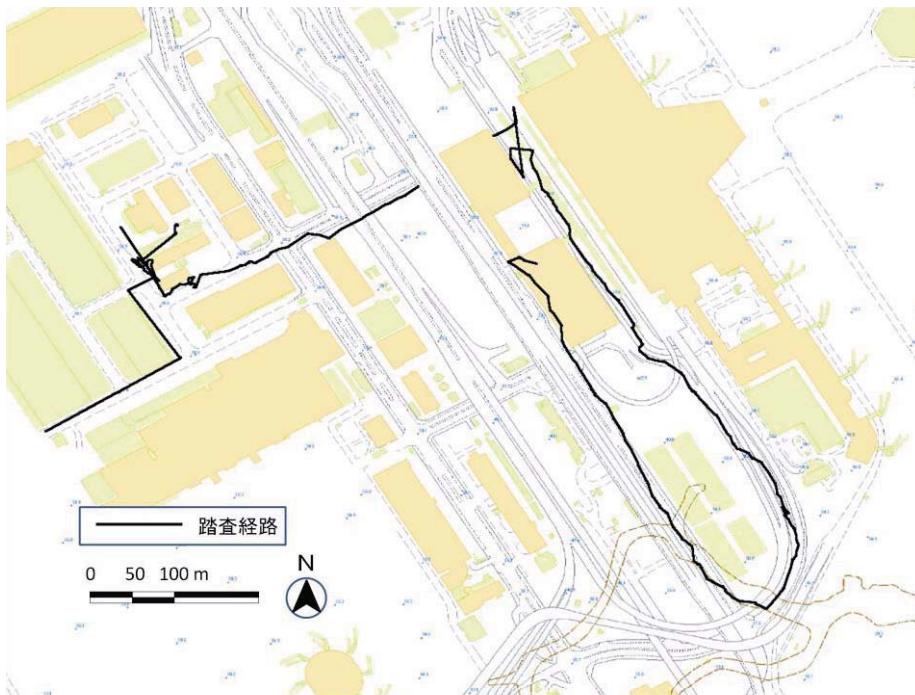


図 1-3-① 成田国際空港踏査路1

(国土地理院の基盤地図を使用した)

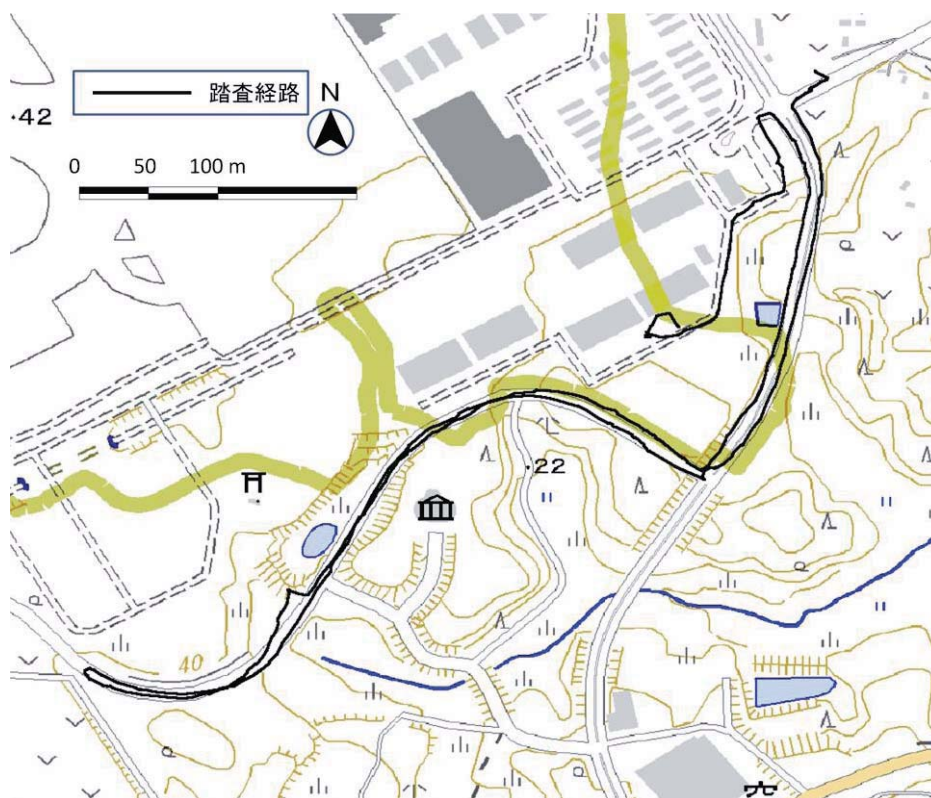


図 1-3-② 成田国際空港踏査路2

(国土地理院の電子国土 web システムを使用した)

イ. 木更津港

- ・踏査日 2013年12月5日（晴れ、最高気温 14.8℃ 最低気温 6.7℃）
- ・踏査経路 図 1-4 を参照
- ・踏査距離 16.8km
- ・踏査人員 1名

モニタリングの結果、特定外来生物に指定されているアリ類の生息は確認されなかった。その他の対象種として、クロヤマアリ、トビイロシワアリ、オオズアリの合計3種のアリ類の生息を確認した。

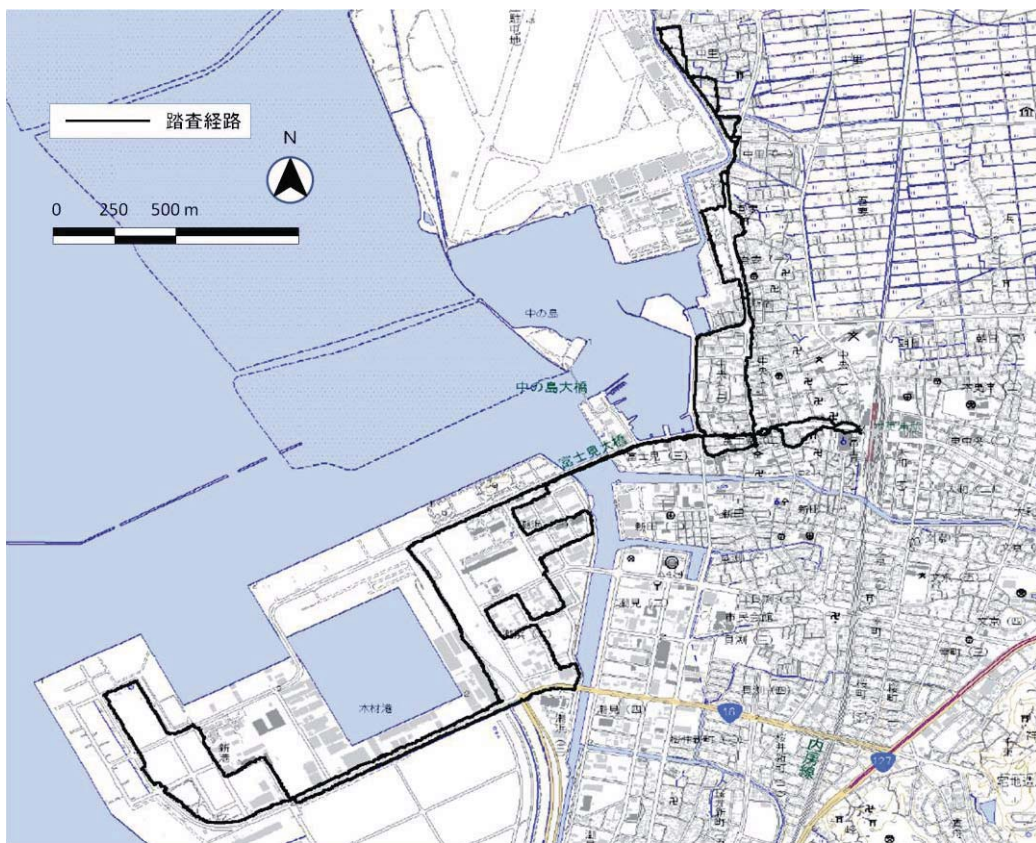


図 1-4 木更津港踏査路

(国土地理院の電子国土 web システムを使用した)

ウ. 千葉港

- ・踏査日 2013年12月13日（晴れ、最高気温 14℃ 最低気温 3.3℃）
- ・踏査経路 図 1-5 を参照
- ・踏査距離 17.7km
- ・踏査人員 1名

モニタリングの結果、特定外来生物に指定されているアリ類の生息は確認されなかった。その他の対象種として、クロヤマアリ、トビイロシワアリの合計2種のアリ類の生息を確認した。

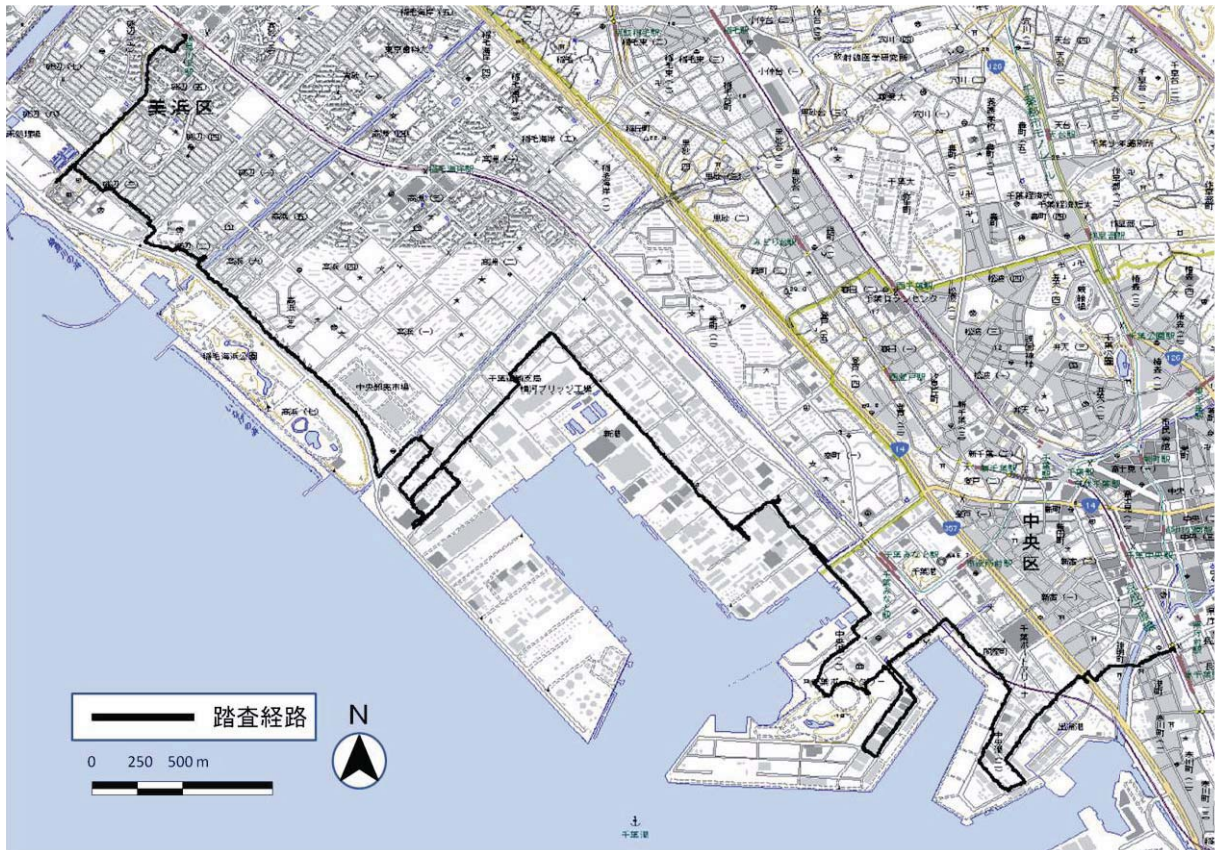


図 1-5 千葉港踏査路

(国土地理院の電子国土 web システムを使用した)

エ. 東京港 (大井埠頭・城南島)

- ・踏査日 2013年9月27日 (快晴、最高気温 24.2℃ 最低気温 16.8℃)
- ・踏査経路 図 1-6 を参照
- ・踏査距離 29.7km
- ・踏査人員 2名

モニタリングの結果、特定外来生物に指定されているアルゼンチンアリの生息を確認した。その他の対象種として、ウメマツオオアリ、クロオオアリ、クロヤマアリ、トビイロケアリ、サクラアリ、アメイロアリ、ルリアリ、アミメアリ、トビイロシワアリ、ムネボソアリ、オオズアリの合計 12 種のアリ類の生息を確認した。

アルゼンチンアリの生息が確認された地点は、城南島 4 丁目城南島海浜公園であった。アルゼンチンアリの生息範囲は、これまでのモニタリング調査時より明らかに縮小していた。また生息密度についても目視では減少していた。

本地域では、平成 25 年度東京都大田区内アルゼンチンアリ防除業務及び平成 25 年度東京都立城南島海浜公園内アルゼンチンアリ生息状況調査業務 (発注元：環境省関東地方環境事務所) に基づいた、アルゼンチンアリの生息状況の把握と防除が現在実施されているところである。

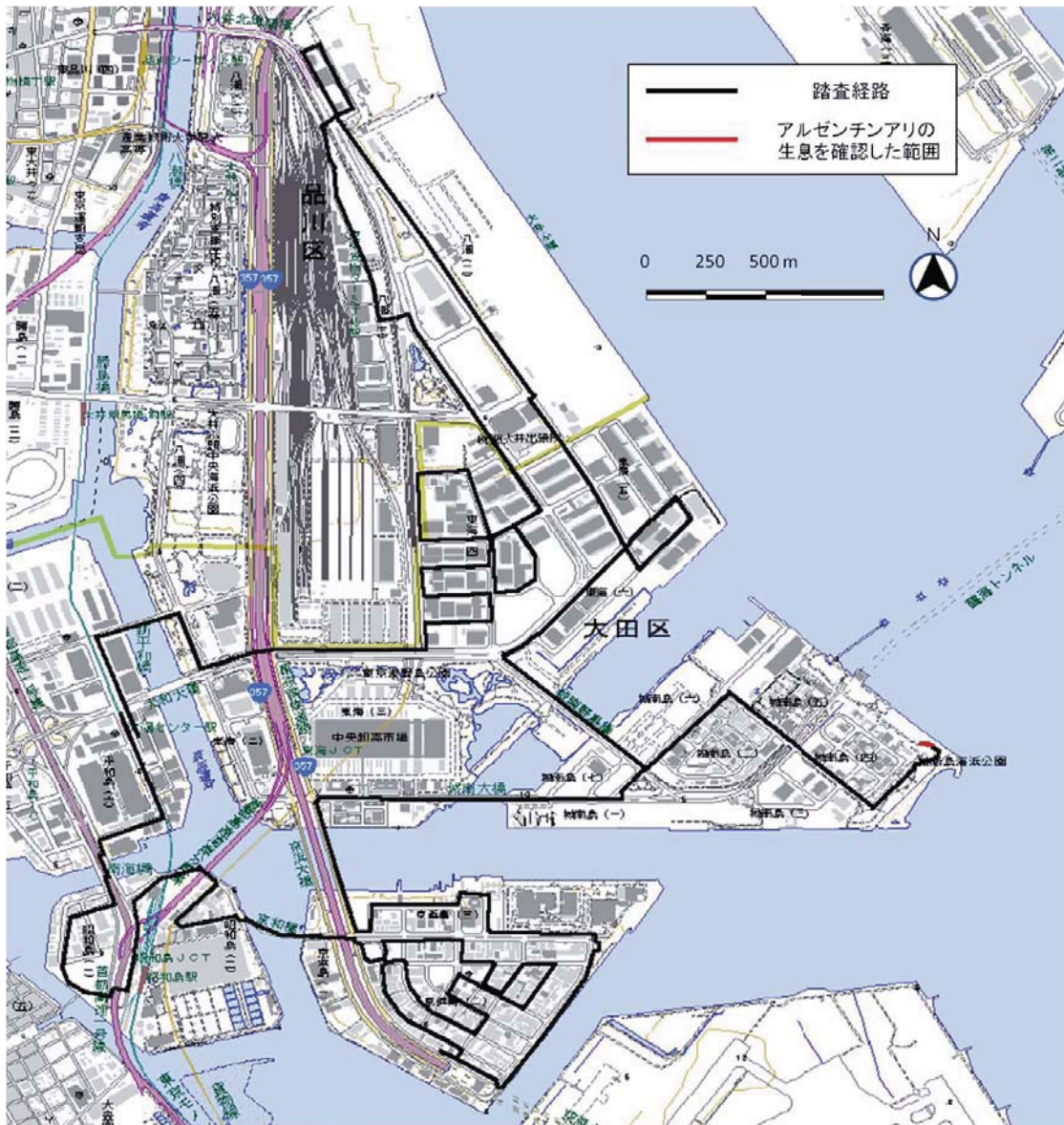


図 1-6 東京港踏査路

(国土地理院の電子国土 web システムを使用した)

オ. 川崎港

- ・踏査日 2013年11月29日(快晴、最高気温13.3℃ 最低気温6.3℃)
- ・踏査経路 図1-7を参照
- ・踏査距離 36.4km
- ・踏査人員 2名

モニタリングの結果、特定外来生物に指定されているアリ類の生息は確認されなかった。その他の対象種として、クロオオアリ、クロヤマアリ、トビイロケアリ、トビイロシワアリ、オオズアリの合計5種のアリ類の生息を確認した。

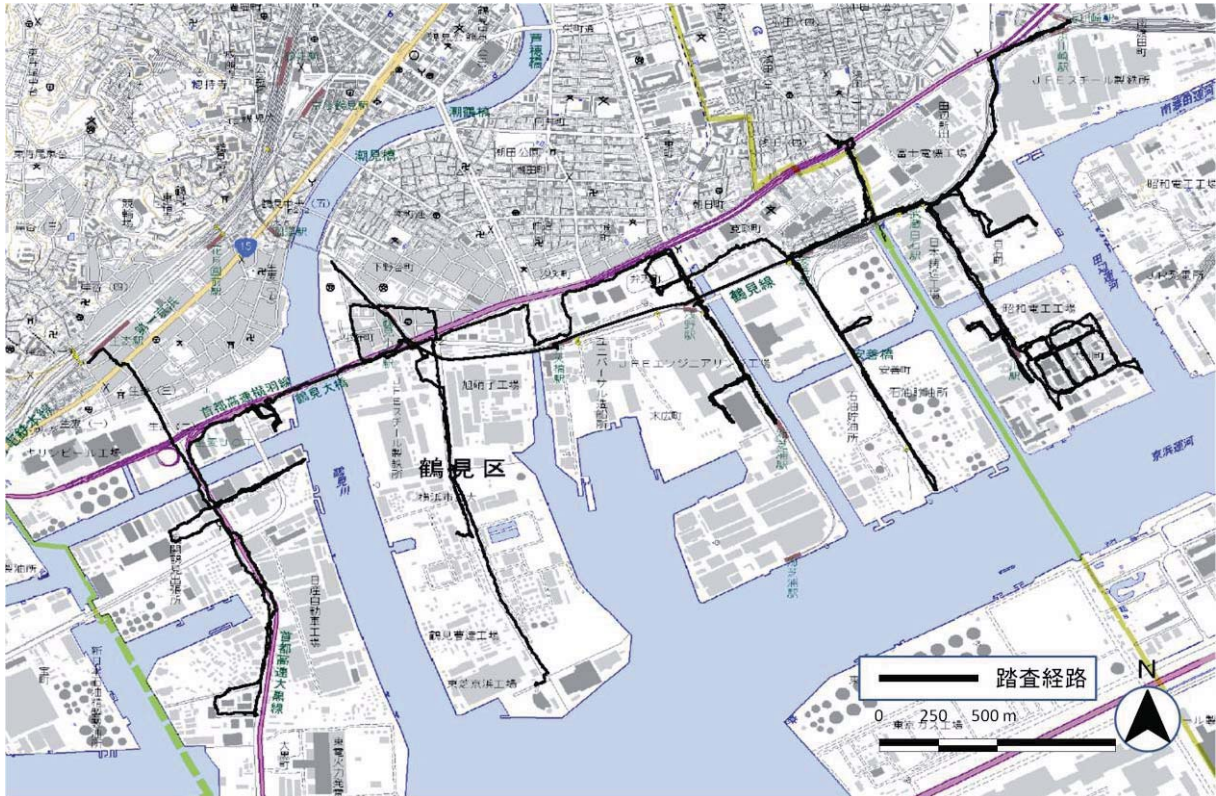


図 1-7 川崎港踏査路

(国土地理院の電子国土 web システムを使用した)

カ. 横浜港 (本牧埠頭・かもめ町)

- ・踏査日 2012年9月29日 (晴れ一時曇り、最高気温 26.1℃ 最低気温 19.2℃)
2012年10月8日 (晴れのち曇り、最高気温 28.7℃ 最低気温 21.7℃)
- ・踏査経路 図 1-8 を参照
- ・踏査距離 53.4km
- ・踏査人員 3名

モニタリングの結果、特定外来生物に指定されているアルゼンチンアリの生息を確認した。その他の対象種として、ケブカアメイロアリ (外)、インドオオズアリ (外)、ウメマツオオアリ、クロオオアリ、クロヤマアリ、トビイロケアリ、カワラケアリ、サクラアリ、ルリアリ、アミメアリ、トビイロシワアリ、ハダカアリ、オオズアリの合計 14 種のアリ類の生息を確認した。

本牧埠頭のアルゼンチンアリ確認地点では、2007年にアルゼンチンアリの生息確認を受けて、根絶に向けた防除活動が 2008年より開始され、ベイト剤、フェロモン剤及び液剤を併用した防除活動が実施された。その結果、アルゼンチンアリの生息範囲は縮小し、2010年7月に一時的に生息が確認された以外の生息報告はなかった。しかしながら、2011年のモニタリングにより防除を免れて生き残ったと考えられるアルゼンチンアリが確認されていた (横浜市中区本牧埠頭 A 突堤)。2012年のモニタリング調査では、その後の防除活動によって、アルゼンチンアリが確認されることはなかったが、2013年のモニタリングでは同所にて再び発生が確認された。また、発生地であ

る横浜市中区本牧埠頭から南南東に約 3.6km 離れた横浜市中区かもめ町にて、アルゼンチンアリの新たな発生を確認した。この新たな確認地点については、定点以外のモニタリングとしてより詳細な調査を実施した。



図 1-8 横浜港踏査路

(国土地理院の電子国土 web システムを使用した)

キ. 清水港

- ・踏査日 2013年10月9日(晴れ、最高気温24.9℃ 最低気温21.9℃)
- ・踏査経路 図1-9を参照
- ・踏査距離 28.6km
- ・踏査人員 2名

モニタリングの結果、特定外来生物に指定されているアリ類の生息は確認されなかった。その他の対象種として、ウメマツオオアリ、クロヤマアリ、トビイロケアリ、サクラアリ、アミメアリ、トビイロシワアリ、オオシワアリ、オオズアリ、クロナガアリの合計9種のアリ類の生息を確認した。

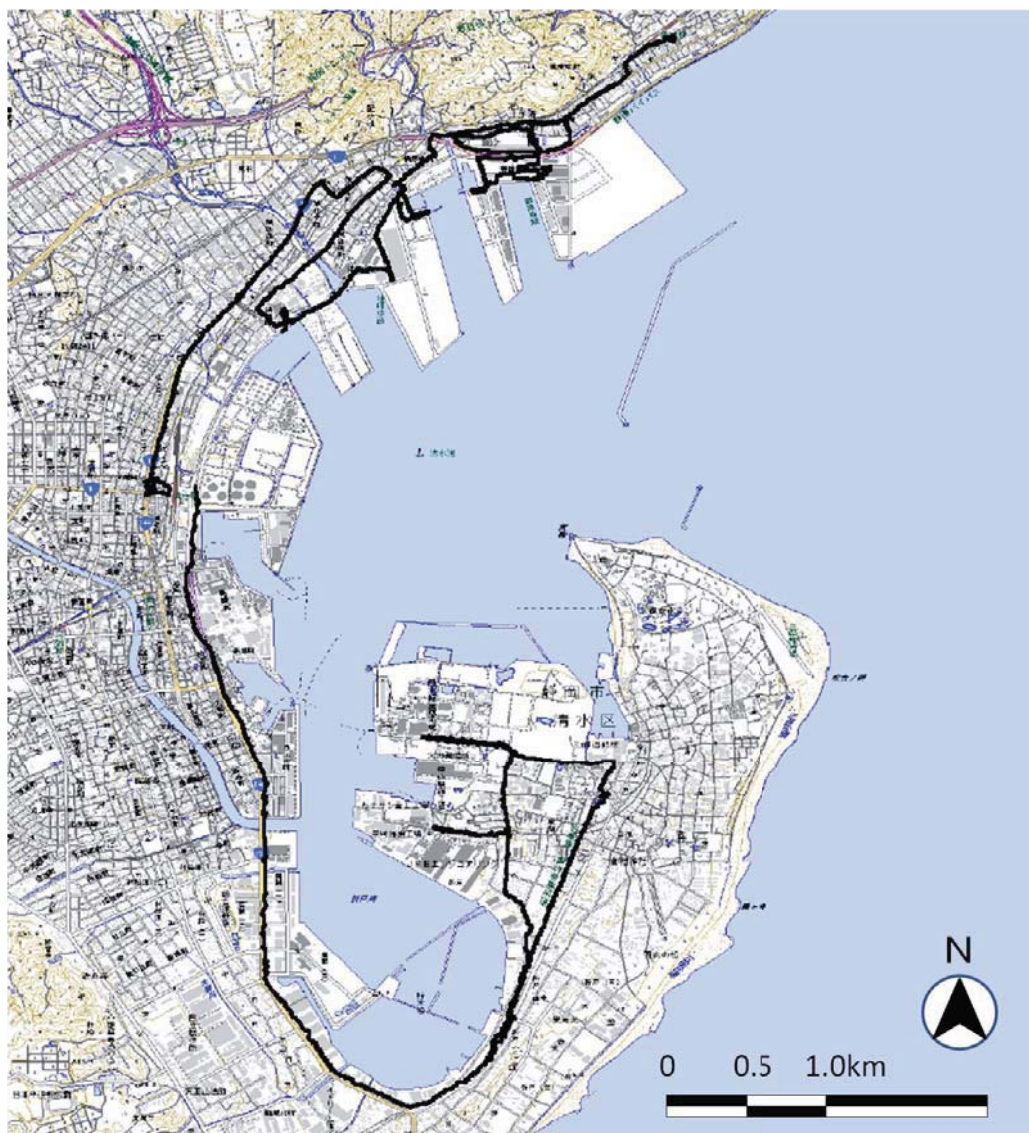


図 1-9 清水港踏査路

(国土地理院の電子国土 web システムを使用した)

ク. 三河港 (明海埠頭)

- ・踏査日 2013年10月31日(晴れのち曇り、最高気温 21.8℃ 最低気温 13.1℃)
- ・踏査経路 図 1-10-①～②を参照
- ・踏査距離 9.2km
- ・踏査人員 2名

モニタリングの結果、特定外来生物に指定されているアルゼンチンアリの生息を確認した。その他の対象種として、クロヤマアリ、アメイロアリ、ルリアリ、ハリプトシリアゲアリ、トビイロシワアリ、ハリナガムネボソアリの合計7種のアリ類の生息を確認した。

2013年のモニタリングでは、2012年に比べ個体密度が大幅に低下しており、部分的にアルゼンチンアリが確認されなかった部分もあった。また、これらの部分には豊橋

市が実施した防除活動のものと見られるベイト剤の形跡が確認され、ベイト剤設置による防除の効果が現れていることが示唆された。

一方で、過年度に踏査を行っていない、明海地区から田原方面へ南に抜ける幹線道路沿いに、アルゼンチンアリの生息範囲が及んでいることを確認した。この生息範囲については過年度に調査を行っていないため、明海埠頭への侵入初期から生息していたのか、新たに分布を拡大したものなのかは不明であるが、従来把握していた分布域より生息範囲は広いことがわかった。また、生息範囲が橋を越えて水路を渡っていることには特に注意が必要で、今後注意深く監視する必要がある。なお、調査範囲の東側の遮断緑地や企業等の敷地内への侵入状況については未調査であり今後の課題である。

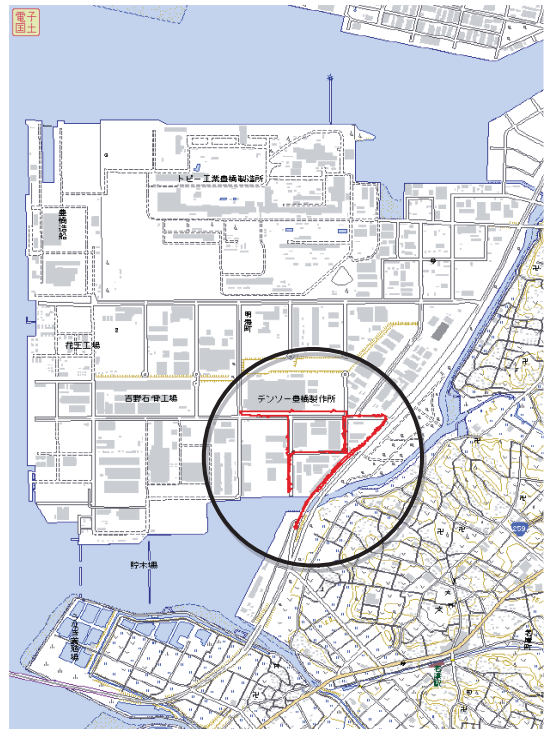


図 1-10-①三河港明海埠頭踏査路

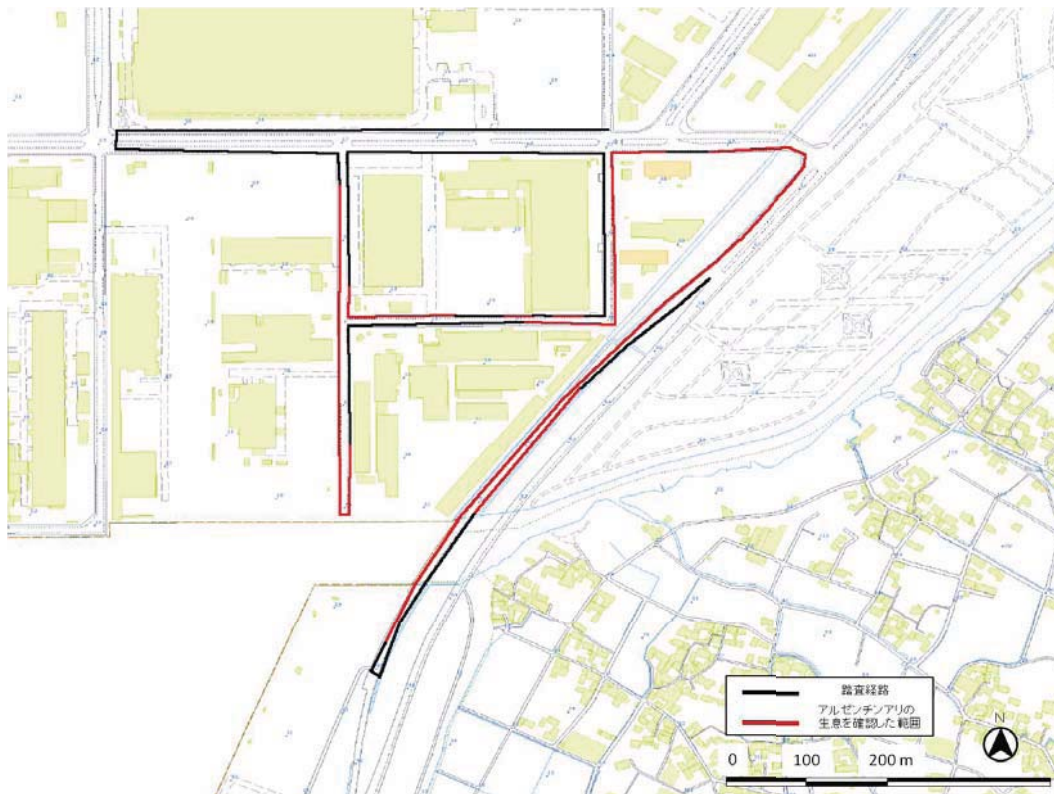


図 1-10-② 三河港明海埠頭におけるアルゼンチンアリ生息確認範囲

(国土地理院の基盤地図を使用した)

ケ. 蒲郡港（三河港）

- ・踏査日 2012年10月30日（晴れ、最高気温 22.9℃ 最低気温 14℃）
- ・踏査経路 図 1-11 を参照
- ・踏査距離 14.5km
- ・踏査人員 2名

モニタリングの結果、特定外来生物に指定されているアリ類の生息は確認されなかった。その他の対象種として、クロヤマアリ、トビイロケアリ、トビイロシワアリの合計3種のアリ類の生息を確認した。

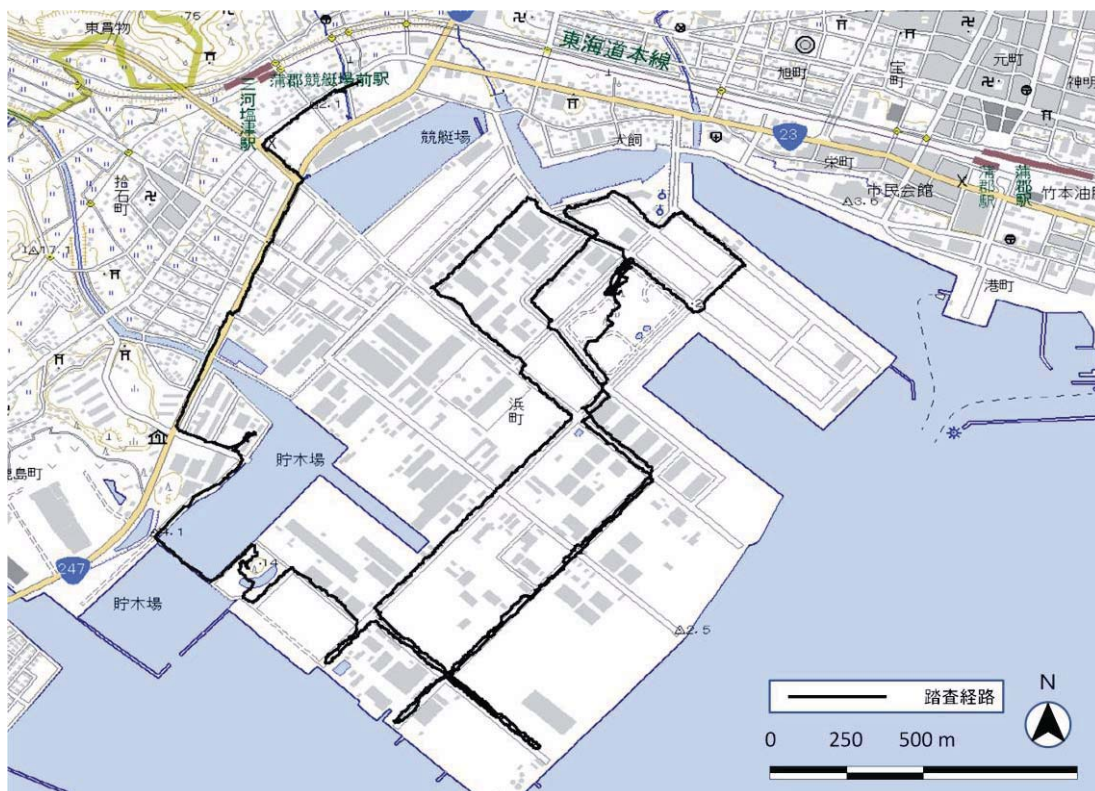


図 1-11 蒲郡港踏査路

(国土地理院の電子国土 web システムを使用した)

コ. 中部国際空港

- ・踏査日 2011年11月14日（晴れ、最高気温 14.4℃ 最低気温 5.7℃）
- ・踏査経路 図 1-12 を参照
- ・踏査距離 13.4km
- ・踏査人員 1名

名古屋植物防疫所中部空港支所の協力を得て検査場周辺においてアリ類の調査を行った。モニタリングの結果、特定外来生物に指定されているアリ類の生息は確認されなかった。その他の対象種として、クロオオアリ、クロヤマアリ、トビイロケアリ、トビイロシワアリ、オオシワアリの合計5種のアリ類の生息を確認した。

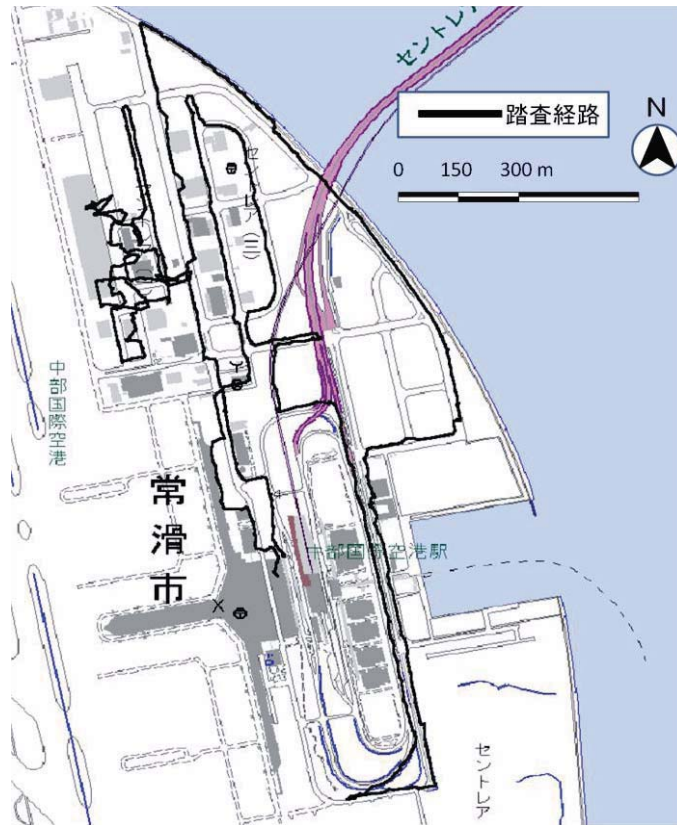


図 1-12 中部国際空港踏査路

(国土地理院の電子国土 web システムを使用した)

サ. 名古屋港

- ・踏査日 2013年9月29日(晴れのち曇り、最高気温22.8℃ 最低気温13.2℃)
2013年9月30日(晴れのち曇り、最高気温22℃ 最低気温11.1℃)
- ・踏査経路 図1-13～15を参照
- ・踏査距離 49.5km
- ・踏査人員 2名

モニタリングの結果、特定外来生物に指定されているアリ類の生息は確認されなかった。その他の対象種として、クロヤマアリ、トビイロケアリ、ルリアリ、ハリブトシリアゲアリ、アミメアリ、トビイロシワアリ、オオシワアリ、ハリナガムネボソアリ、オオズアリ、の合計12種のアリ類の生息を確認した。



図 1-13 名古屋港踏査路1

(国土地理院の電子国土 web システムを使用した)

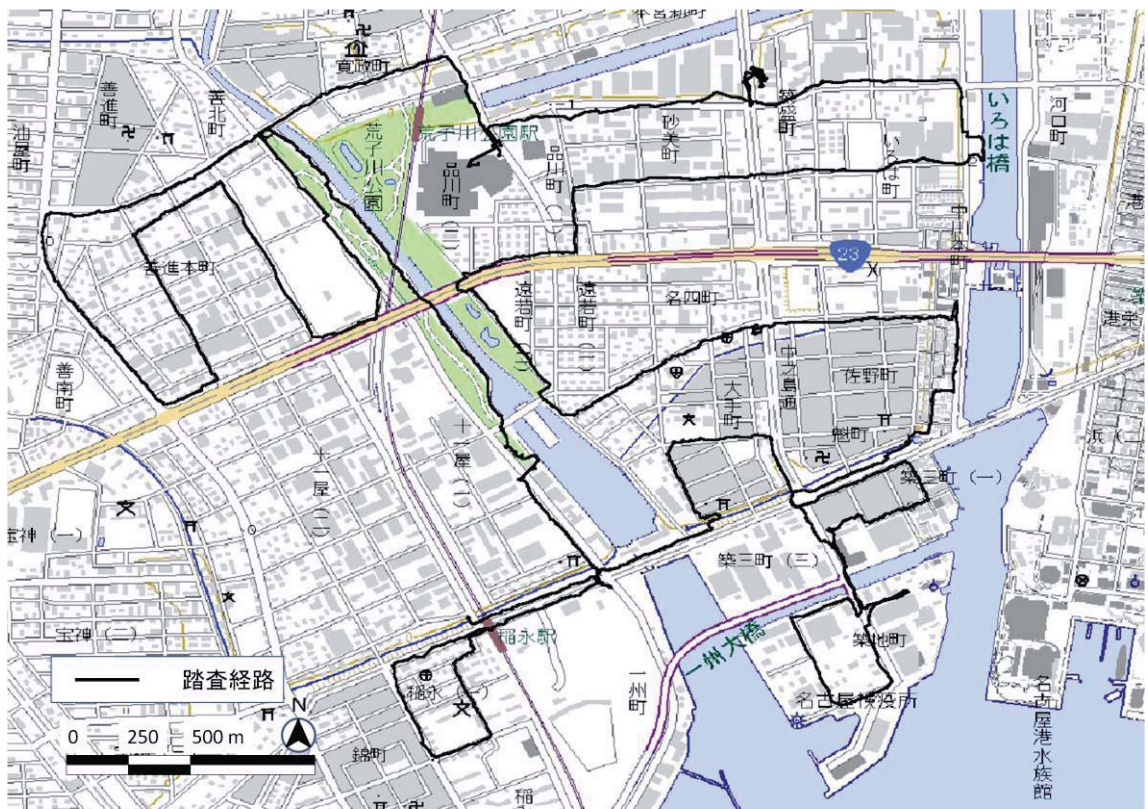


図 1-14 名古屋港踏査路2

(国土地理院の電子国土 web システムを使用した)

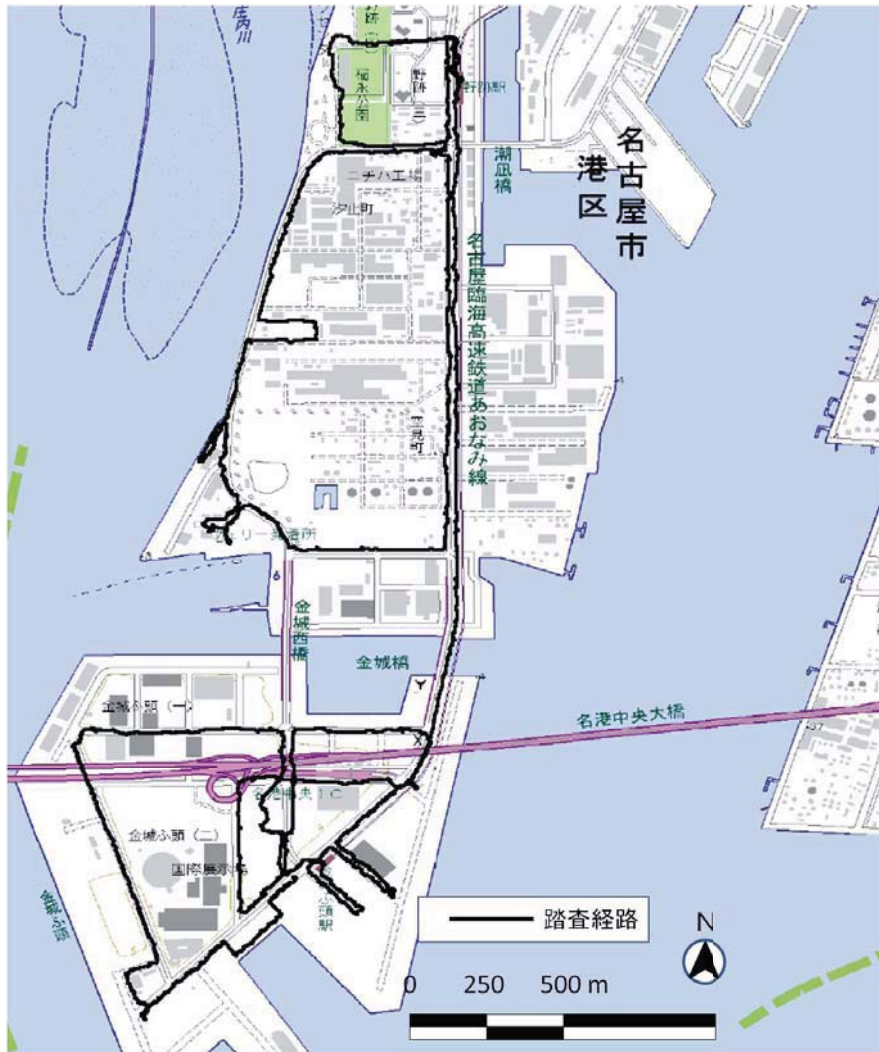


図 1-15 名古屋港踏査路3

(国土地理院の電子国土 web システムを使用した)

シ. 大阪港（住之江区）

- ・踏査日 2012年10月18日（曇り、最高気温 19.2℃ 最低気温 13.2℃）
- ・踏査経路 図 1-16 を参照
- ・踏査距離 44.5km
- ・踏査人員 3名

モニタリングの結果、特定外来生物に指定されているアルゼンチンアリの生息を確認した。その他の対象種として、ケブカアメイロアリ（外）、ウメマツオオアリ、クロオオアリ、クロヤマアリ、サクラアリ、ルリアリ、アミメアリ、トビイロシワアリ、オオシワアリ、オオズアリ、オオハリアリの合計 11 種のアリ類の生息を確認した。

住之江区においてアルゼンチンアリの生息が確認されたのは、2012年の定点モニタリング調査における住之江区新北島4丁目付近での確認が最初であった。2013年の調査においてもアルゼンチンアリは継続して確認され、分布の中心は大きく変わらないものの、分布範囲は東西に100m程度伸長していた。2012年では小学校などを含む住

宅地において、道路脇の植え込みの周辺などで行動するアルゼンチンアリが観察されるのみであったが、2013年では、分布範囲の南側に流れる大和川の河岸堤防沿いにも侵入が確認され、分布範囲の西側では堤防に沿って分布範囲が伸長していた。今後、モニタリングを継続するにあたっては、大和川沿いについても注意深く監視する必要がある。なお、2013年のモニタリングでは、2012年よりも調査範囲を拡大して調査を実施したが、周辺地域からはアルゼンチンアリの生息は確認されなかった。

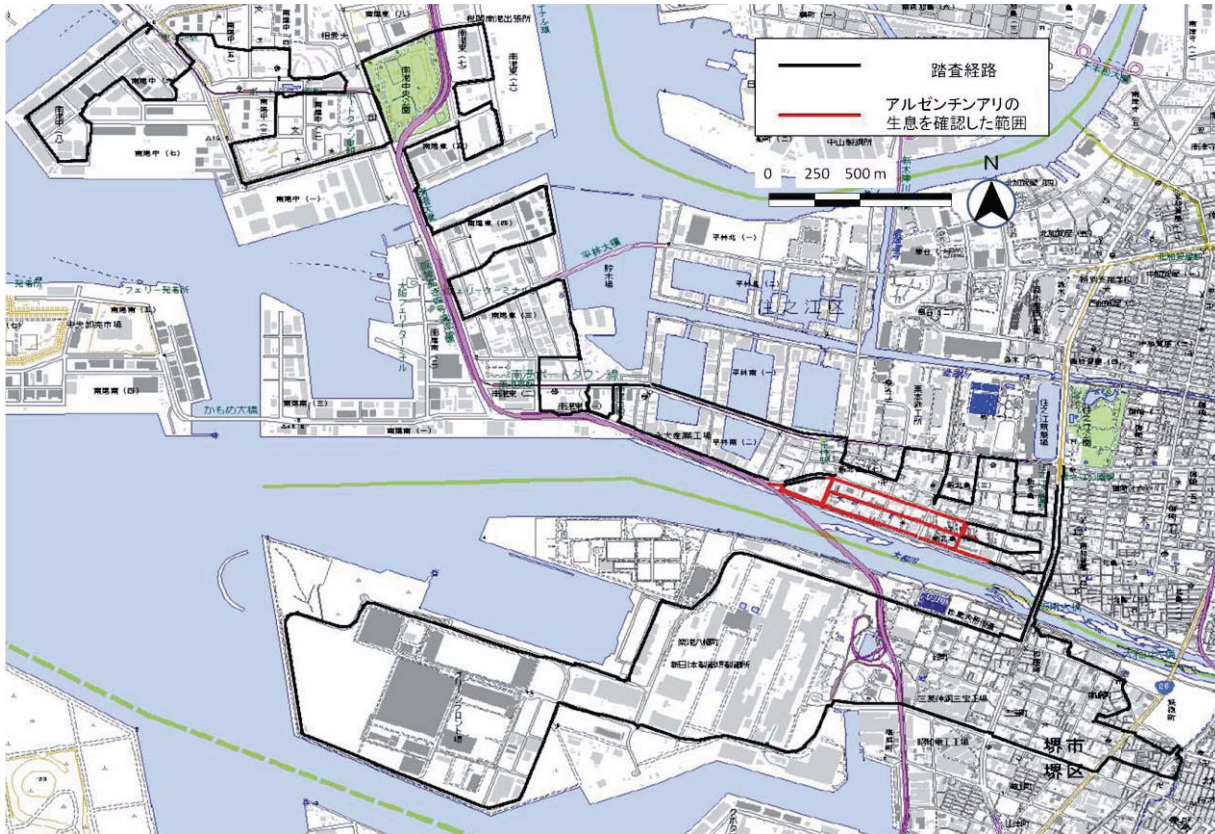


図 1-16 大阪港踏査路

(国土地理院の電子国土 web システムを使用した)

ス. 神戸港

- ・踏査日 2013年10月16日(雨のち曇り、最高気温 20.8℃ 最低気温 14.6℃)
2013年10月17日(晴れ、最高気温 19.9℃ 最低気温 12.7℃)
- ・踏査経路 図 1-17~19 を参照
- ・踏査距離 72.8km
- ・踏査人員 3名

モニタリングの結果、すでに定着が報告されている特定外来生物のアルゼンチンアリの生息を摩耶埠頭、ポートアイランド、神戸市中央地区において確認した。その他の対象種として、ケブカアメイロアリ(外)、ウメマツオオアリ、クロヤマアリ、トビイロケアリ、サクラアリ、ルリアリ、アミメアリ、トビイロシワアリ、オオシワアリ、

ハリナガムネボソアリ、ムネボソアリ、オオズアリ、オオハリアリの合計 14 種のアリ類の生息を確認した。

A. 摩耶埠頭

モニタリングの結果、すでに生息が報告されている特定外来生物のアルゼンチンアリの生息を確認した。摩耶埠頭からアルゼンチンアリの生息が初めて確認されたのは 2009 年のことである。今回のモニタリング調査の結果では、2012 年の調査結果と比べ生息範囲の大きな変化は確認されなかった。また生息密度については、依然高く、アルゼンチンアリ生息部分には在来アリ類が確認されない状態が続いている。

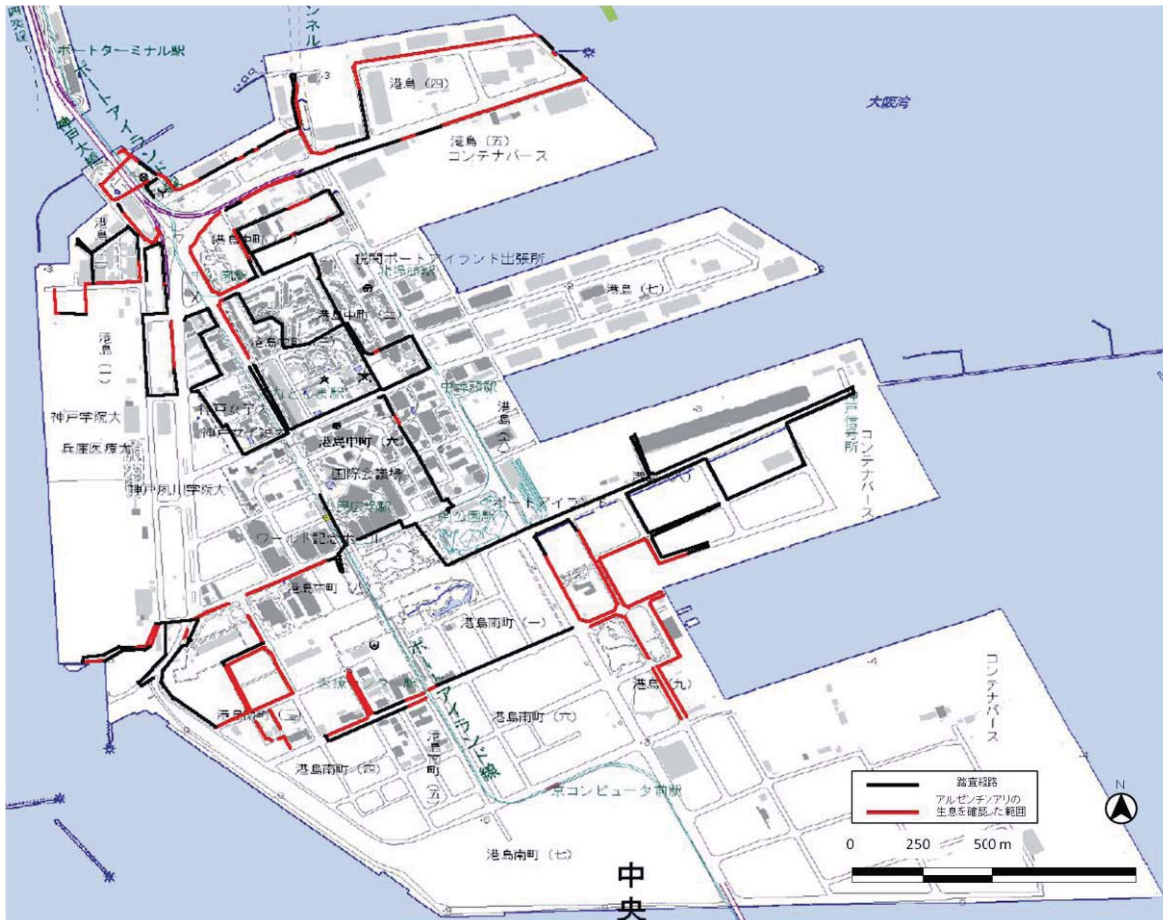


図 1-17 神戸港摩耶埠頭におけるアルゼンチンアリ生息確認範囲

(国土地理院の電子国土 web システムを使用した)

B. ポートアイランド

モニタリングの結果、すでに定着が報告されている特定外来生物のアルゼンチンアリの生息を確認した。前年度に踏査していないルートにおいても発生を確認し、アルゼンチンアリはポートアイランドの広い範囲に生息していることが確認された。特にポートアイランドの北部では依然高い密度で生息し、南部においては年々分布範囲が拡大している。



(国土地理院の電子国土 web システムを使用した)

C. 神戸市中央地区

モニタリングの結果、すでに定着が確認されている特定外来生物のアルゼンチンアリの生息を確認した。

これまでの定点モニタリング調査から、アルゼンチンアリは海岸通り（国道 2 号線）沿いの商業地区や波止場町メリケンパーク付近に生息していることが確認されており。今回のモニタリング調査では、商業地区において密度は比較的 low、波止場町の公園では多数のアルゼンチンアリが観察される等、発生傾向はこれまでのモニタリングの結果と大きくは変わらなかった。しかしながら、最も生息密度の非常に高い波止場町メリケンパーク及びその側道部分について、土砂の掘り返しを含む改修工事が行われている箇所があり、生息密度が非常に高い部分であるだけに工事の際の土砂や植栽の移動について懸念された。

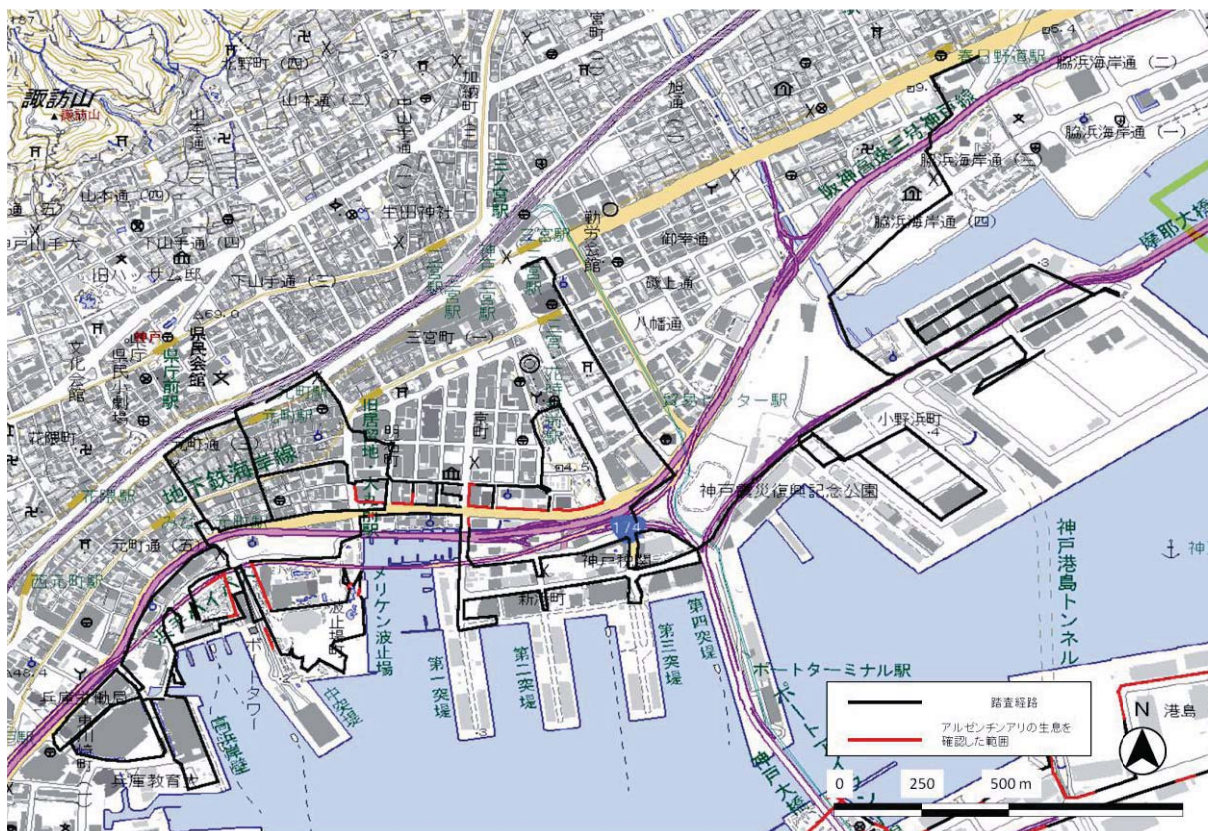


図 1-19 神戸港神戸市中央地区におけるアルゼンチンアリ生息確認範囲

(国土地理院の電子国土 web システムを使用した)

セ. 須磨海浜公園

- ・踏査日 2013年10月16日(晴れ、最高気温24℃ 最低気温15℃)
- ・踏査経路 図1-20を参照
- ・踏査距離 30.6km
- ・踏査人員 3名

モニタリングの結果、特定外来生物に指定されているアルゼンチンアリの生息を確認した。その他の対象種として、インドオオズアリ(外)、クロヤマアリ、トビイロケアリ、アミメアリ、トビイロシワアリの合計6種のアリ類の生息を確認した。アルゼンチンアリの生息が確認された主な範囲は、2012年のモニタリングで確認された範囲と同じ須磨海浜公園の東側、外浜町1丁目であった。生息範囲内には殺蟻剤の設置等防除活動の形跡がみられたが、アルゼンチンアリの密度は高かった。また2013年のモニタリングでは発生地(西側)から、須磨海浜公園内へアルゼンチンアリの生息範囲が拡大していた。

須磨海浜公園付近における確認地点である外浜町1丁目は、ほぼ外周を海、河川に囲まれた埠頭のように飛び出した状態であり、地形的には遮断されているが、ヨット・釣り船等の船着場の利用客や防災センター(消防署)のように不特定の地域との出入りが多い地域でもあり非意図的な導入の供給源になりうる。今回の須磨海浜公園内へ

の侵入が確認され、他地域への分布拡大は主に須磨海浜公園と国道2号線に出る道路を經由して広がってゆくと考えられ、今後これらの地点を中心とした監視を行い、警戒する必要がある。

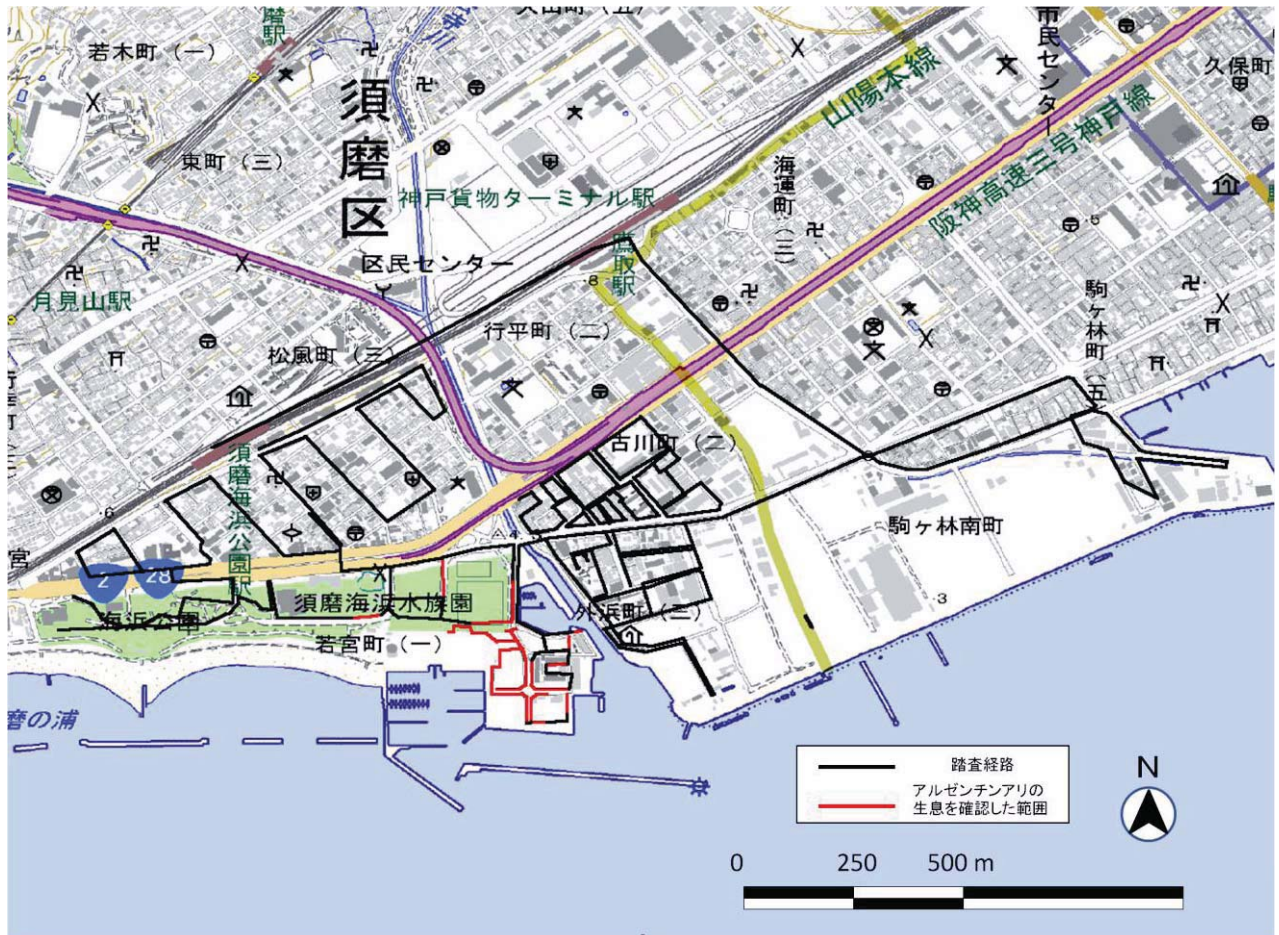


図 1-20 須磨海浜公園におけるアルゼンチンアリ生息確認範囲

(国土地理院の電子国土 web システムを使用した)

ソ. 福岡空港

- ・踏査日 2013年9月19日(晴れ、最高気温32.3℃ 最低気温20.2℃)
- ・踏査経路 図1-21を参照
- ・踏査距離 11.4km
- ・踏査人員 2名

モニタリングの結果、特定外来生物に指定されているアリ類の生息は確認されなかった。その他の対象種として、クロオオアリ、クロヤマアリ、トビイロケアリ、トビイロシワアリ、オオハリアリの合計5種のアリ類の生息を確認した。

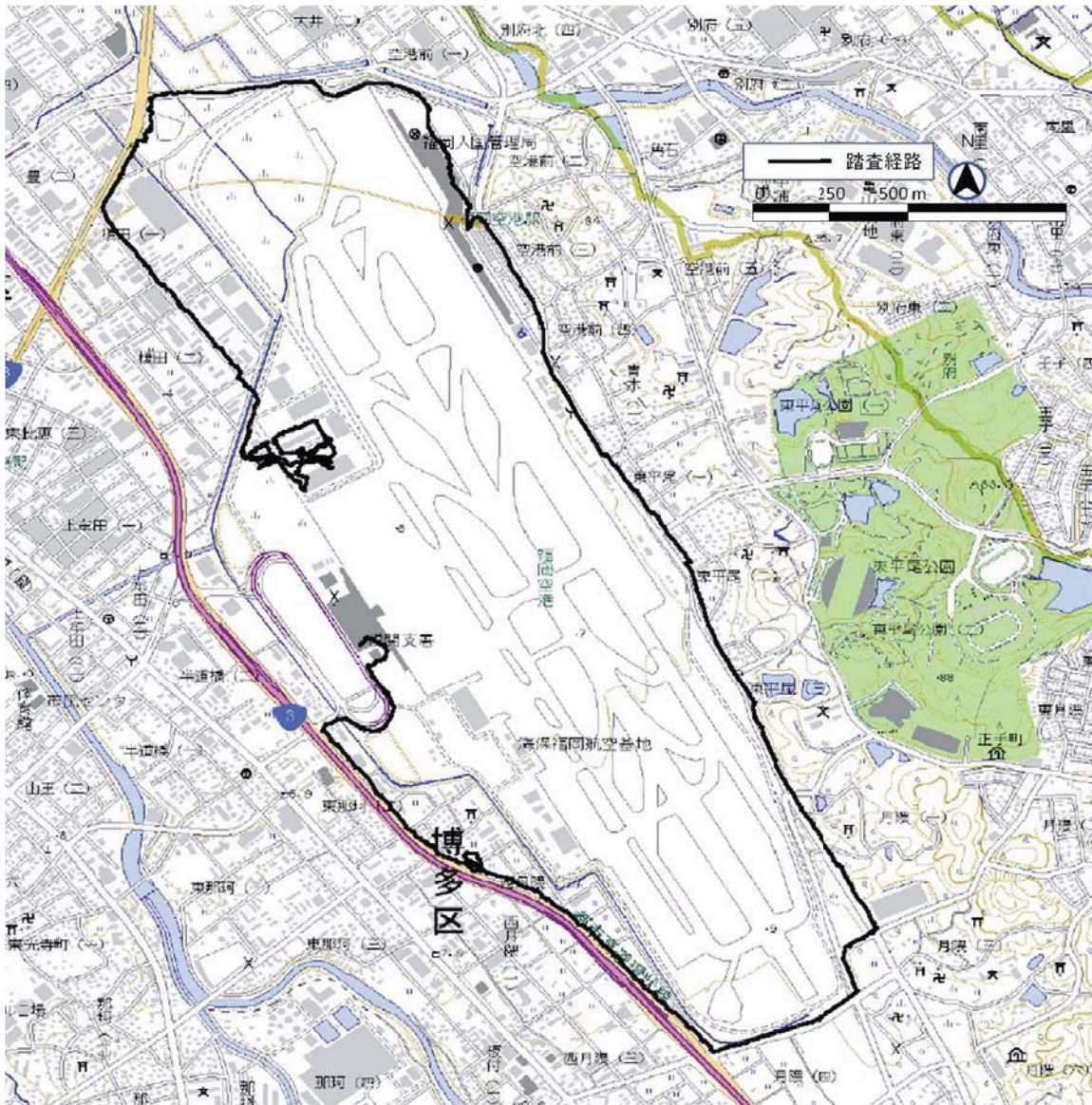


図 1-21 福岡空港踏査路

(国土地理院の電子国土 web システムを使用した)

夕．博多港

- ・踏査日 2013年11月20日(晴れ、最高気温12.7℃ 最低気温7.1℃)
- ・踏査経路 図1-22～23を参照
- ・踏査距離 17.6km
- ・踏査人員 2名

モニタリングの結果、特定外来生物に指定されているアリ類の生息は確認されなかった。その他の対象種として、ケブカアメイロアリ(外)インドオオズアリ(外)、ウメマツオオアリ、クロヤマアリ、トビイロケアリ、トビイロシワアリ、オオシワアリ、ムネボソアリの合計8種のアリ類の生息を確認した。

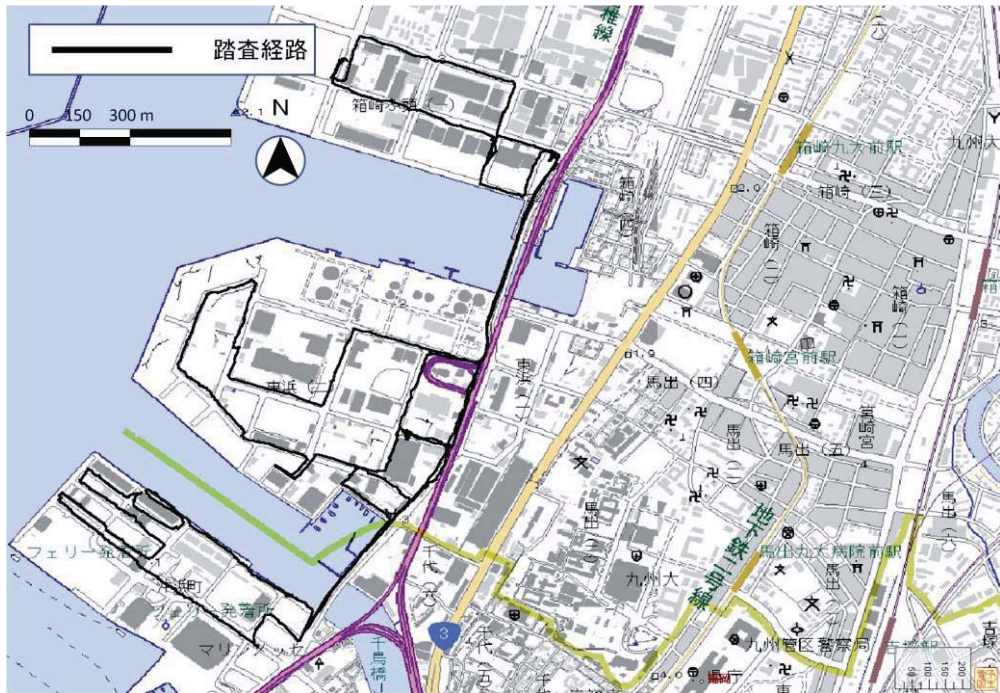


図 1-22 博多港踏査路 1

(国土地理院の電子国土 web システムを使用した)



図 1-23 博多港踏査路 2

(国土地理院の電子国土 web システムを使用した)

チ. 佐世保港

- ・踏査日 2012年11月21日(曇り、最高気温13.3℃ 最低気温7.3℃)
- ・踏査経路 図1-24を参照
- ・踏査距離 44km
- ・踏査人員 2名

モニタリングの結果、特定外来生物に指定されているアリ類の生息は確認されなかった。その他の対象種として、ケブカアメイロアリ(外)、ウメマツオオアリ、クロヤマアリ、ルリアリ、トビイロシワアリ、オオズアリの合計6種のアリ類の生息を確認した。

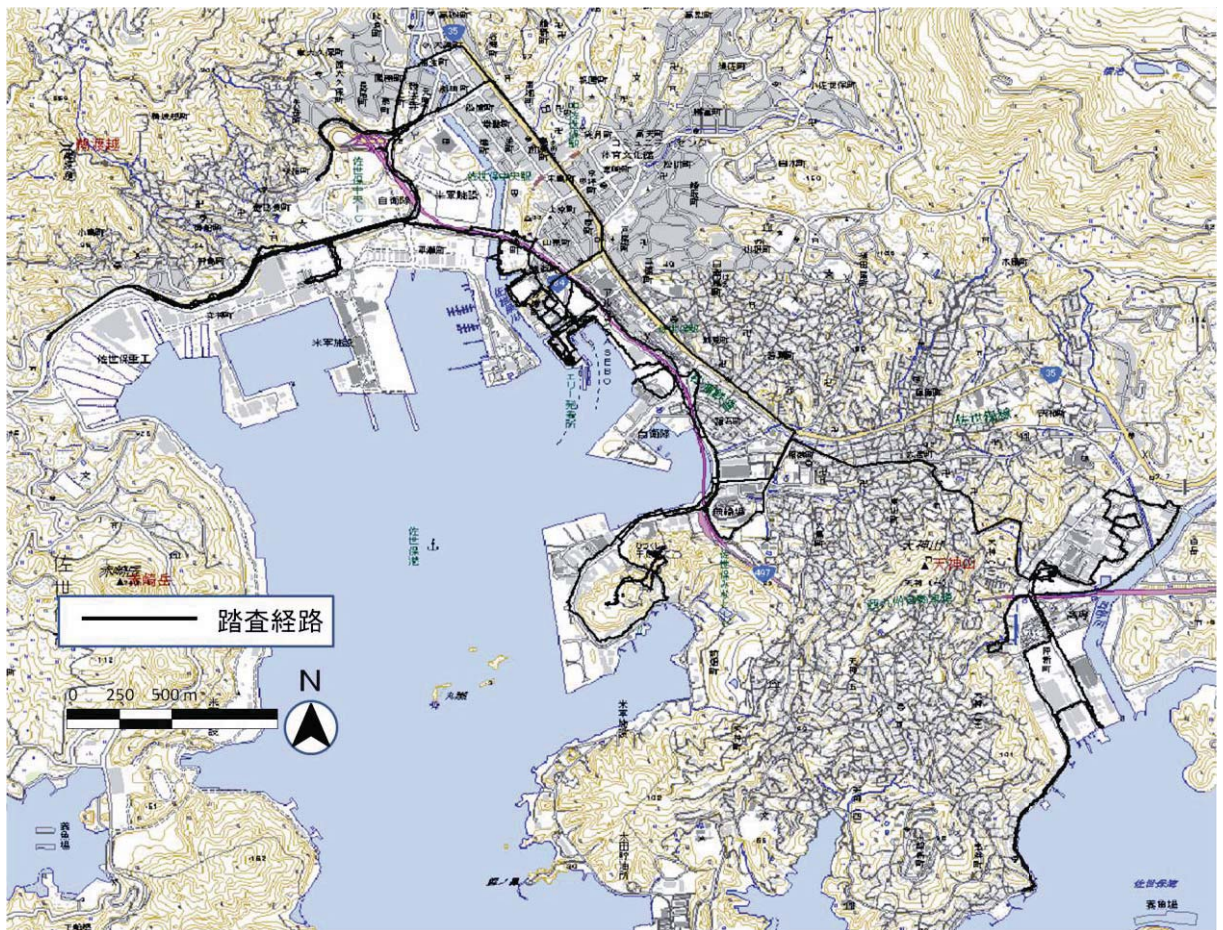


図1-24 佐世保港踏査路

(国土地理院の電子国土 web システムを使用した)

ツ. 伊万里港

- ・踏査日 2013年11月22日（晴れ、最高気温 14.2℃ 最低気温 2.8℃）
- ・踏査経路 図 1-25 を参照
- ・踏査距離 12.6km
- ・踏査人員 2名

モニタリングの結果、特定外来生物に指定されているアリ類の生息は確認されなかった。その他の対象種として、インドオオズアリ（外）、クロヤマアリ、ルリアリ、トビイロシワアリの合計4種のアリ類の生息を確認した。

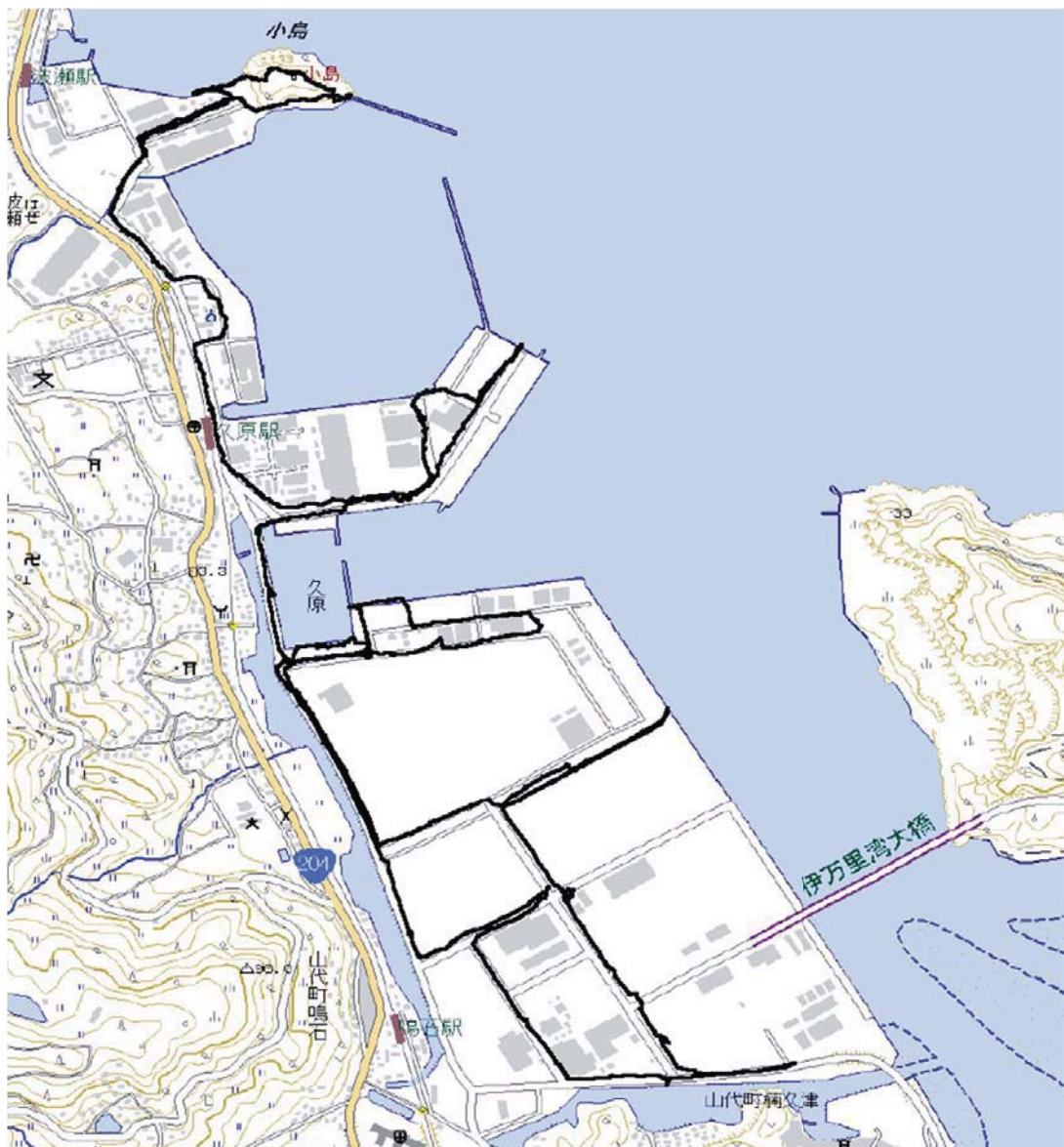


図 1-25 伊万里港踏査路

(国土地理院の電子国土 web システムを使用した)

テ. 那覇港・那覇空港周辺

- ・踏査日 2013年12月17日（曇りのち雨、最高気温 23.4℃ 最低気温 20.9℃）
2013年12月18日（曇り一時雨、最高気温 22.7℃ 最低気温 18.1℃）
- ・踏査経路 図 1-26 を参照
- ・踏査距離 52.3km
- ・踏査人員 2名

モニタリングの結果、特定外来生物に指定されているアリ類の生息は確認されなかった。その他の対象種として、ヒゲナガアメイロアリ（外）、ツヤオオズアリ（外）、アカヒラズオオアリ、アシナガキアリ、アワテコヌカアリ、オオシワアリの合計6種のアリ類の生息を確認した。

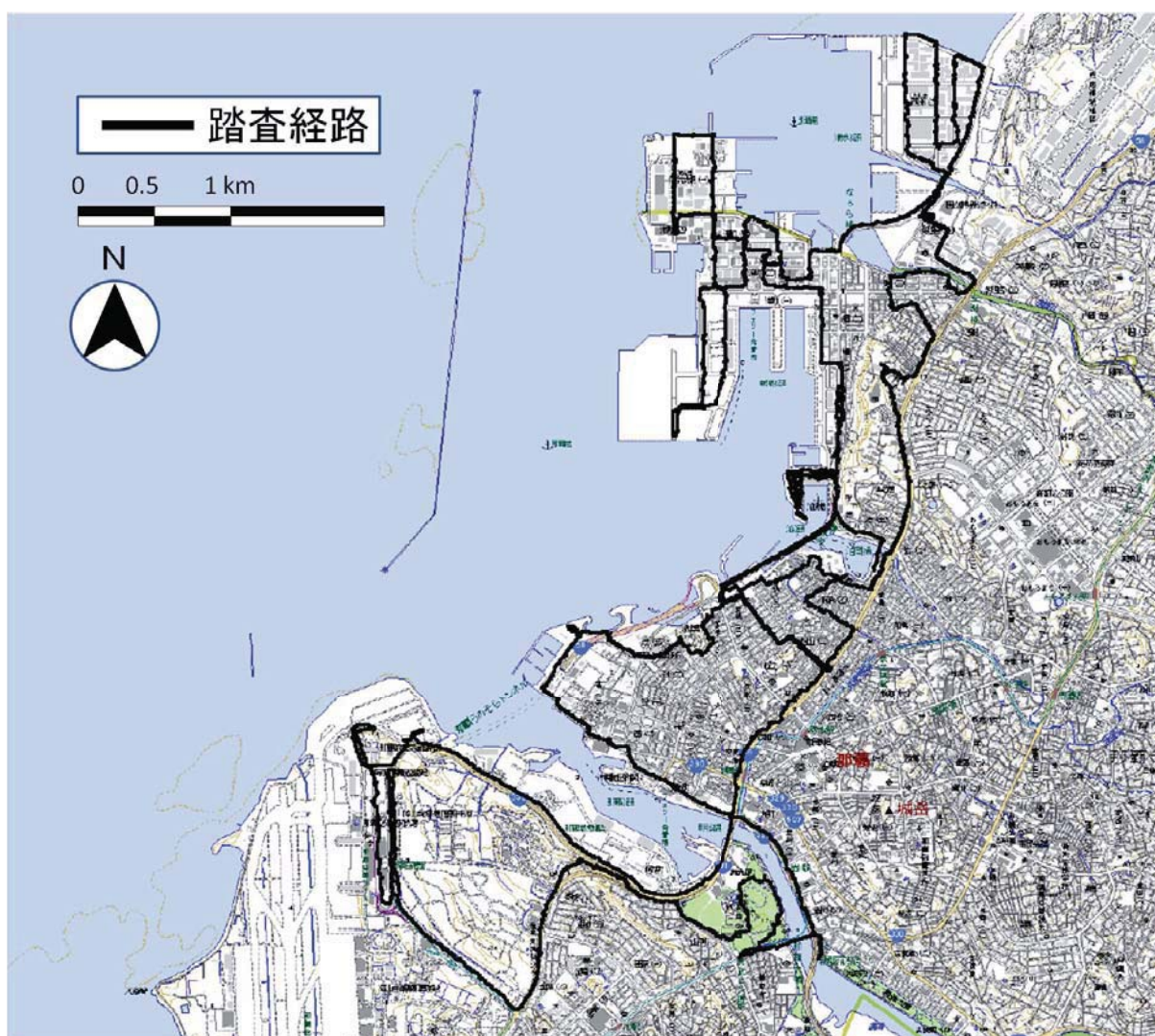


図 1-26 那覇港踏査路

(国土地理院の電子国土 web システムを使用した)

ト. 石垣港

- ・踏査日 2013年12月19日（雨時々曇り、最高気温 19.1℃ 最低気温 16.7℃）
- ・踏査経路 図 1-27 を参照
- ・踏査距離 28.9km
- ・踏査人員 2名

モニタリングの結果、特定外来生物に指定されているアリ類の生息は確認されなかった。その他の対象種として、ケブカアメイロアリ（外）、ヒゲナガアメイロアリ（外）、ツヤオオズアリ（外）、アシナガキアリ、オオシワアリの合計約5種のアリ類の生息を確認した。

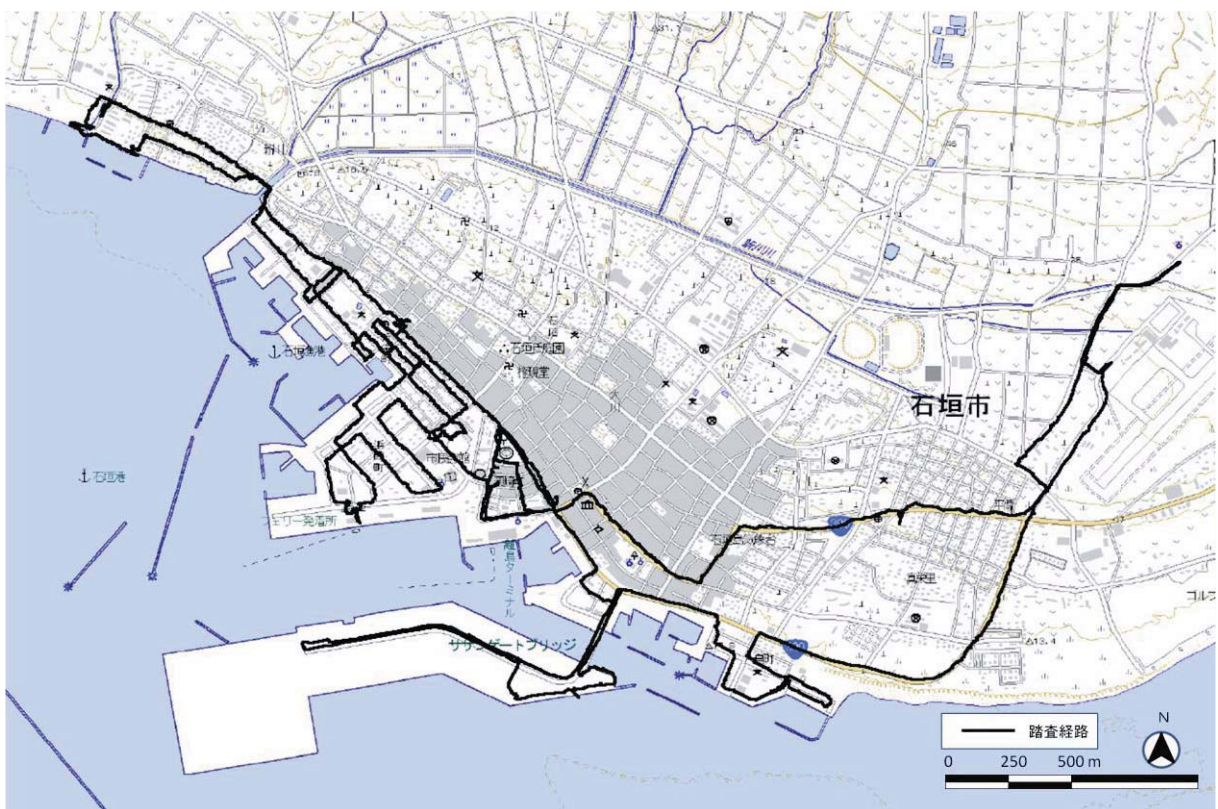


図 1-27 石垣港踏査路

（国土地理院の電子国土 web システムを使用した）